

# 受け入れ表明の見込み

きょう3者会談

震災がれき処理で県市長会

亀井会長に一任

県市長会は十九日、津市桜橋二丁目の県自治会館で定例会を開き、東日本大震災で発生したがれきの広域処理への対応を協議し、会長の亀井利克名張市長に一任した。二十日の町村会理事を終了後に鈴木英敬知事と亀井会長、谷口友見町村会会長が会談し、安全性の確認などを前提に受け入れを表明する見込み。ただ、市長会副会長の鈴木健一伊勢市長は県内処理に反対している。

安全性の確認など前提に



震災がれきの受け入れについて語る亀井会長  
＝津市桜橋2丁目で

会合は非公開で実施。終了後の取材に、亀井会長は「台意書、覚書について協議した。いろんな意見があり、きょう言えることはない」と説明。一任されたと認めながらも、「これから県と調整する中で、あす(二十日)きちっと報告したい」と述べるにとどめた。

伊勢市長は反対

一方、鈴木伊勢市長は「安全性がまったく理解できない。国が安全だと言っ

て、そうですか」とは答えられない」と主張。同市内での処理だけでなく、広域処理自体に疑問を唱えた。受け入れには前向きな山中光茂松阪市長も、県の責任を明確にすべきとし、「形式的に合意したとしても、まったく進まない。メディア

パフォーマンズとしての合意に何の意味があるのか」と指摘した。

これを受け、鈴木英敬知事は「市長会、町村会の結果については、二十日に開く三者会談でお聞きすることになっている」と述べ、それを待ちたい」とコメント。台意書案では、安全性の確認▽住民の不安の払しょく▽議会の理解など環境の整備▽処理後の体制整備―を前提に、可能な市町から受け入れを進めるとした。(森川静香)